

KSKP

たびだち つうしん

出

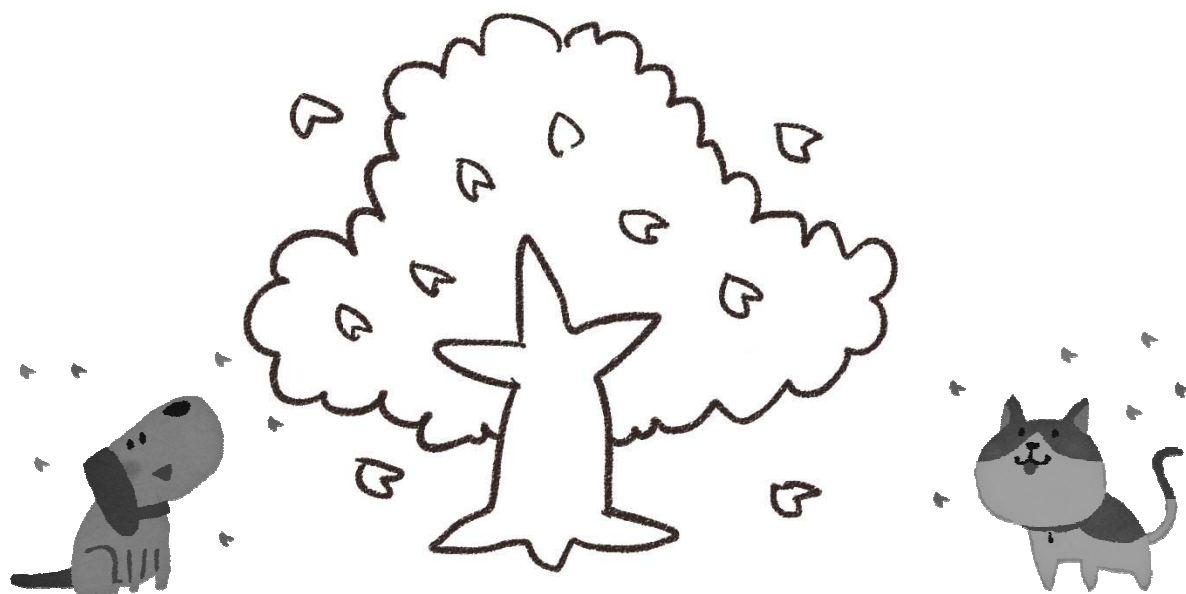
発

通

信

163号

NPO法人 出発のなかまの会



一九八四年 八月二十日 第三種郵便物認可
毎月 1・2・3・4・5・6・7・8の日 発行

もくじ
目次

ふくしま つづ 福島とつながり続けること	2
さいがい た む じぶん かんが ぼうさい じしん べんきょうかい 「災害に立ち向かう！自分たちで考える！」防災・地震の勉強会しました！	4
わたし ちいき く ほいくえん しごと 私たちは地域で暮らしているんだ～『保育園のお仕事』～	5
しょうがいしゃ 「障害者が、なんだー！！」	6
インターンシップはじめました	8
こそだ にっき スタッフ子育て日記	9
じりつ しみん せいじゅく かつどう てんかい む 自律した市民の成熟した活動の展開に向けて	10
ねん ど そうかい し 2018年度総会のお知らせ	11
かつどう 活動のあと	12

福島とつながり続けること

2018年1月12日(金)、東西キーマンぶっちゃけ対談(福島⇔大阪ねちっこくつながって
いこう)を開催しました。昨年7月、福島県郡山市あいえるの会より研修にこられた緑川さ
んと関わった大阪の事業所の集まりが「チームもちもち(福島と大阪をつなぐ事業所の集い)」
となり主催した企画です。あいえるの会の代表理事白石清春さんとDPI日本会議副議長の
尾上浩二さんを招き、障害者運動の歴史や東日本大震災後の福島の現状についてお話して
いただきました。会場には90名ほどの方が来場されました。

第一部では「白石清春の障害者運動に身を費やした人生」という資料をもとに、白石さん
の障害者運動45年の歴史を中心に対談が始まりました。

1950年に脳性まひで生まれた白石さんは、就学猶予通知に反対した母の思いで、小学校
1.2年生を普通校の特殊学級で過ごされました。その後入所施設、養護学校を経て1969年に
卒業。1975年に養護学校時代の親友と“共同自立”を始められます。

1974年には福島県青い芝の会を結成。優生保護法(1948年施行、1996年母体保護法に
改正、改名)に対する反対運動や和歌山県の施設糾弾闘争、川崎バス闘争(1977)、養護学校
義務化反対運動(1979)に参加されました。和歌山の活動では、青い芝の会員で施設入所さ
れていた方が会員勧誘を施設職員から止められ鉄道自殺したことに抗議、事務所を占拠し、
一晩泊るといった活動もされています。また、バスの乗車拒否に抗議し川崎駅前に青い芝の
会員60名が集結、30台のバスに乗り込みバスを止めた“川崎バス闘争”にも参加。その様子
は『ふたつの地平線』という映像に残っています。様々な活動をやってきた白石さんですが、
「いろんな運動をやって警察にも数度お世話になったが一度も牢屋に入れられず釈放された。
人間として扱ってくれなかった。ここでも差別を感じた。」とのことです。以後、糾弾告発型
の青い芝の活動から、制度をつくっていく活動にシフトされ、1981年相模原に運動拠点とし
て「脳性まひ者が地域で生きる会」をつくり「脳性まひ者地域作業所・くえびこ」を開所され
ました。障害者の所得保障問題として1980年より「全国所得保障確立連絡会(所保連)」を
結成。「白石さんたちの活動がなければ今の半額以下の福祉年金しかなかった」との尾上さん
のお話もありました。1986年には相模原にケア付き住宅「シャローム」をオープン。相模原
や横浜にあったこのようなグループホームを、当時尾上さんが見学、体験入居し大阪にもグ
ループホームができるきっかけとなったとのことです。「大阪のグループホームは横浜や
神奈川の自治体がつくったものを真似てできた」と尾上さんのお話でした。その後は故郷福



しまけん もと じりつせいかつ せつりつ
 島県に戻られ自立生活センターを設立されています。

だいにぶ ぼとう げんばつひがい う ふくしま げんじょう ほうじん もりその さく
 第二部では、冒頭に原発被害を受けた福島の実況と、NPO法人ちゅうぶの森園さんより昨
 ねん がつ こおりやまほうもん かん どうじしゃ せいかつ おおさか ちが ほうこく いどう しゅだん
 年8月の郡山訪問で感じた当事者の生活、大阪との違いが報告されました。移動の手段がほと
 んど くるま まんせいてき ひとでぶそく かいじょしゃ かくほ むすか ひとりく むすか
 んど車であることや、慢性的な人手不足で介助者の確保が難しく、一人暮らしが難しい
 げんじょう はな しらいし ひがしにほんだいしんさい ねん た ふくしま じょうきょう
 現状などが話されました。白石さんからは「東日本大震災から7年経った福島の状況」に
 ついてスライドを使って報告されました。「原発事故のため福島各地で活躍していたリーダー
 かく しょうがいしゃ ひなん けんない しょうがいしやうどうめん じゃくたいか ほうこく
 格の障害者が避難し、県内のCILが障害者運動面で弱体化してきている」との報告もありま
 した。また郡山での今後の活動として2年後のケア付き住宅の建設を目指し来年度から本
 かくてき うご だ
 格的に動き出していくとのことでした。

しつきおうとう しらいし じしん げんばつ ひがい う ひなん おも
 質疑応答では「白石さん自身は原発の被害を受けて避難しようとは思わなかったか」との質
 もん
 問がされました。「あいえるの会の全職員に呼びかけて、話し合いをもった。ここにいたら危
 ないの、できればみんなで避難したいと言ったが、誰も賛成しなかった。自分のふるさとを
 はな せいかつ じぶん いえ で ひなんせいかつ かくご
 離れて生活すること、自分の家をほったらかして出る、避難生活はものすごく覚悟がいる。み
 んなそういうことができない、と思った。この場にとどまる、となった。避難できるならば今
 すぐにでも避難したいと私個人としては思う。しかし多くのなかまをおいて自分だけ避難す
 るという選択はできなかった」と白石さん。様々な選択が、原発事故によって強いられている
 ふくしま げんじつ せんとく しらいし さまざま せんとく げんばつ じ こ し
 福島の現実がここにもあることを改めて痛感しました。

ひがしにほんだいしんさい げんばつ じ こ ふく ふくしま げんじつ しんさい こ ねん つきひ わす さ
 東日本大震災と原発事故を含む福島の現実は震災後7年という月日とともに忘れ去られて
 しまうのではない、無かったことにされるのではないかという怖さが私にはあります。福島
 のこ ひと ひなん ひと わ げんばつ じ こ こんなん せんとく にちじょうせいかつ
 に残った人、避難した人と分けるのではなく、原発の事故からずっと、困難な選択を日常生活
 のなか し げんじつ けつ わす おも
 の中で強いられてきたという現実を決して忘れてはならないと思います。またいじめや風評
 ひがい たら さべつ へんけん げんばつ じ こ う わす
 被害といった“新たな差別や偏見”を原発事故が生んでしまったということも忘れてはならな
 おも しらいし おのうえ かつどう げんてん し さべつ いきどお つつ ゆうき ちから
 いと思います。白石さんや尾上さんの活動の原点を知ることは、差別に「憤り続ける勇気や力
 を教えてください。そしてその活動を「なかま」と共有することの大切さも教えてください。

いまこんなん じょうきょう ふくしま
 今困難な状況にある福島だからこそできることがあるのじゃないか。福島とつながり続け
 ることは自分たちの活動にも生きてくると私はそう思っています。

(マサヤ・M)

「災害に立ち向かう！自分たちで考える！」防災・地震の勉強会しました！

災害はいつやってくるのか分かりません。関西でも大きな地震が起こるといわれています。作業所やグループホームでは避難訓練をしたり、非常食を揃えたり、他の団体と一緒にまち歩きをし、準備や心づもりをしてくれています。

ひとり暮らし生活をされている当会のメンバー4名が、大きな地震がきた場合、ひとりでどうするのが決めていない！ということで、ひとり暮らしの方の避難訓練をする事になりました。しかし、メンバーにどこへ避難するか質問すると、予想に反した答えが出てきました。グループホームや作業所へ逃げるのではなく、母が心配だから「高齢者ホームへいこうかな」だとか、電車が心配だから「大阪駅へ行く！」など、それぞれの思いがあるのだなあと感じました。また「地震来ません！」と主張され、「そのときどうするか分からん」という人も・・・。「決められた避難先へ逃げるように」と伝えても、いざというときには上手くないかなと感じ、まずは話し合うことから始めることにしました。



そこで「第1回地震だいじょうぶ会？」を開きました。地震が来たら部屋の中のたんすやテレビが倒れる映像を見て、危険があることや玄関がふさがれると逃げられない、ひとりで逃げられない、どうする？という事を話し合いました。

そこでまず、メンバーから質問が！「・・・死んだらどうなるの？」言葉に詰まり返答に困りましたが、「死なないようにするにはどうすればいいのかを考えよう！」とあらかじめ撮っていた自宅の写真を見て危ないところを探し、もってきたツッパリ棒や粘着シートなどの耐震グッズを見て触ってもらいました。

みんなで話をすることで、ひとり暮らしの不安な思いも共感できたのか、対策をしようかなという気になれたようです。少しずつ災害に対する理解を深めていき、それぞれのメンバーの思いを汲み取っていきたいと思います。対策をしながら災害に備え、地域の方とも協力しながら前向きに防災に取り組んでいきたいと思ひます！

(サトシ・M)



わたし ちいき く 私たちは地域で暮らしているんだ～『保育園のお仕事』～ ほいくえん しごと

なかがわひがし ほいくえん ねん はたら 中川東のこもれび保育園で 15 年も働いています。

あいさつもよくがんばりました。発表会のお手伝いもがんばりました。 はっぴょうかい てつだ

じぶん きゅうしょく はこ た しよつき も 自分から給食のバットを運んだり、食べた食器を持っておりたしています。バスケットのマ
ットレスをいつもフェンスの ところ なら 所に並べています。

きゅうしょく しる はこ きゅうしょく しる なべ も はこ 給食のおみそ汁も運んだりしています。給食のおみそ汁の鍋を持って運んだりしていま
す。きゅうしょく しよつき も した はこ きゅうしょくよう はこ せんせい たす 給食の食器を持って下まで運んでいます。給食用バットを運んで A 先生は助かってい
ます。きゅうしょく ぐみ た さら きゅうしょくしつ はこ 給食のバットにあやめ組さんの食べたお皿をのせて給食室まで運んでいます。あや
め こども いっしょ と い きゅうしょく しよつき てつだ せんせい りす みせんせい めの子供と一緒に取りに行っています。ひとりで給食の食器を手伝って A 先生は莉朱実先生
がいてるので助かっています。A 先生のクラスであやめ組さんと一緒に給食を食べるのが楽
しいです。

あやめ組さんと一緒に外でおにごっこをして遊んだりもしています。ドッチボールもしたり
ります。あやめ組さんと一緒に部屋でサイコロゲームで遊んでいます。トランプもしたり
しています。あやめ組の誰かが部屋の中を走っていたら怒ったりもします。あやめ組さんの女
こ おとこ こ りょうほう おこ は や お部屋からトイレにタオルを持って行く
とき はし おこ 時、走っていくので怒られています。あやめ組さんと一緒に外で遊んでぶつかったりしない
か 見 ています。あやめ組さんと一緒に折り紙を教 えてあげたりもします。あやめ組さんと一緒に
お がみ てつだ どうぶつ お かた おし 折り紙をお手伝いしています。動物の折り方を教 えてあげます。

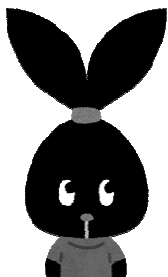
あやめ組さんと会えなくなるのが寂しいです。あやめ組さんといっばい遊んでとても楽しか
ったです。あやめ組さんと一緒にバスケットしてとても楽しかったです。 たの

(リズム・T)



みらくるちっぴ通信5月号に修正を加えて掲載しています。

「障害者が、なんだー！！」



今回は、みらくるちっぴを卒業したA君（高校2年生）きょうだいのお話です。A君は昨春府立高校に入学しました。中学では陸上部に入っていますが、高校の陸上部には部員がおらず、視覚障害の仲間と走る活動を続けています。そんな中、A君の才能に目をつけた方が「パラリンピックに挑戦してみないか」と声をかけてくださいました。いつも前向き、A君は大乗り

気！お家にも担当の方が来られ、トレーニングを始めることになりました。しかし、その方はA君の家に来ると、宿題をしていた弟のB君（小学3年生）に向かって、「弟君（←名前ではなく）、お母さんは忙しいから手伝って！」と、B君にA君の手伝いをさせ始めたのです。

気のいいB君は渋々宿題の手をとめ、手伝ってくれましたが、その方は最後までB君の名前を呼ぶこともなく、お母さんは何とも言えない嫌な気分が残ったそうです。次の日、お母さんは

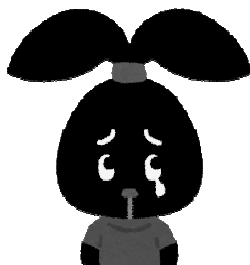
B君に「嫌だったんじゃない？」と尋ねましたが、B君は「そんなことないよ。家族やもん。」と言うばかり。お母さんがA君に自分の気持ちを話し、A君がB君に「ごめんね。嫌だったよね。」と謝るとようやく「ほんまはな、ぼく、あの人嫌いやねん。」と言いだしたそうです。その夜、B君は枕に向かって「障害者が、なんだー！！」と叫んで眠りにつ



たそうです。

私はこの話を聞き、A君、B君がとっても愛おしくなり、そして、ちょっとほっとしました。B君のお兄ちゃんは二人とも全盲で、もう一人のC君は身体も不自由です。B君はお兄ちゃん思いで、外出してもいつもお兄ちゃんたちの心配をし、お兄ちゃんたちのために動こうと頑張っています。自分なりに感じている、まわりからの期待に応えたい気持ちもあるでしょう。でも、その心の奥には“お兄ちゃんたちばかりが注目されている”ように感じていたり、

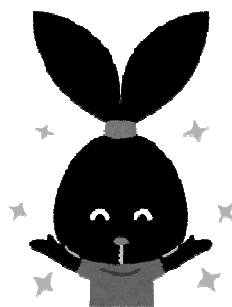
そのことを表現してはいけないように感じていたりすることもあるでしょう。そんな葛藤をいつも心の奥に押し込めていると、いつか心は疲れてしまいます。“感じてはいけない”ことは何もないのです。自分の気持ちを正直に表現し、解放することは、自分に気づくことにもつながっていきます。そのことで落ち込むこともあるかもしれませんが、それを受け止めてくれる



場所が子どもには必要なのです。B君は、“お母さんやA君が受け止めてくれる”という安心感を感じたからこそ「障害者が、なんだー！！」と、叫んだのではないかと思います。弱い立場におかれた人にとって、まずは“自分の思いを表現する”ことがとても大切なことなのです。子どもは表現する力が弱く、大人からは“よくわかっていない”と思われやすいため、思いをまともに受け止めてもらえないことも多いのが現実です。子どもは、思いを受け止めてもらった経験を積み重ねることで表現する意欲を高め、成長していきます。一人ひとりの子どもの思いに真摯に耳を傾けることが、それぞれの子どもの尊厳を高め、人権を守ることに繋がっていくのだと肝に銘じたいと思っています。

みらくるちっぷは、普段は主に障害のある子どもたちが通う場所です。それでも、通っている子どもたちだけでなく、そのきょうだい児たちも含め、それぞれの子どもがポジティブな感情もネガティブな感情も解放し、それを受け止め一緒に育ち合っていく場にしていきたいと思っています。

(ミサオ、K)



！！ボランティア募集！！

みらくるクラブ、サイクリングサークル、ハイキングクラブなどなど、

楽しい野外活動に参加してみませんか？

詳しくは、出発のなかまの会ホームページをご覧ください。

お問い合わせは

TEL 06-6754-3011 (担当：スガタ) まで

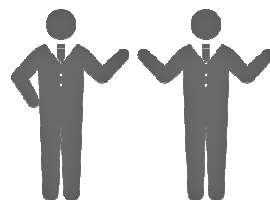


インターンシップはじめました

インターンシップとは大学生に就業体験の機会を与える活動です。国会や地方議会などの議員のもとで就業体験をしたり、企業で実際の働きかたを体験したりすることで、自分自身の卒業後の進路について考える機会にもなるようです。最近では NGO（非政府組織）や NPO（非営利活動団体）でインターンシップを希望する学生も増えてきているとのことです。

当会のインターンシップに来た 3 名の学生は、約 2 ヶ月間かけて、グループホームや作業所で障害者の暮らしを支える仕事を体験したり、障害のある子どもと一緒に遊んだり、職員に帯同して様々な経験を積みました。最初は緊張した面持ちだった学生も、活動回数を重ねるごとに自分たちの話もするようになりました。

インターンシップの最終日には、学生自身がインターンシップを通じて感じたことについて報告しました。ある学生は「子どもが自分の似顔絵を描いてくれた。自分が誰かに頼られることがとても嬉しかった」と報告しました。実際、彼は子どもからの人気が高く、「あの兄ちゃんいつ来るん？」と聞かれるほどでした。また、別の学生は「授業で福祉制度の勉強



をしているけれども、実際にメンバーが生活しているところに入らせてもらって、本当に自由な雰囲気いいなあと思った。メンバーの視点に立って支援することが大切だと感じた。自分は将来、福祉の仕事をするかもしれない。そのときはできる限りメンバーの希望することをやりたいと思う」と、報告しました。3 名の学生が共通して述べていたのは、小・中学校時代に障害者との接点がほとんどなかったことでした。「障害のある人はできないことが多いと勝手に思い込んでいた。でも、障害があってもできることがたくさんあるということがわかったし、知らないということが偏見や差別を生み出すんだと思った。だから一般にもっと障害者のことを知ってもらうことが必要だと思います」と語る学生もいました。この学生は、障害当事者が集まって話し合う「どんどん会議」で、平成 30 年度に新設される日中サービ



ス支援型グループホームの話聞いたとき、「20 人で住むことは悪いことなのかな？」と思っていたのですが、実際にグループホームに行くと「少人数だからこんなに家庭的で自由に過ごせるんだなあ」と感じ、20 人で住むことに怒っていたメンバーの気持ちが理解できたと話していました。

がくせい ぜんいん さい みなさんアルバイトをしながらかよ たいがく にかよ えいようがく けいざいがく
 学生は、全員19歳。みなさんアルバイトをしながらかよ たいがく にかよ えいようがく けいざいがく
 さんぎょうしゃかいがく まな がくもんりょういき こと さまざま せんもんりょういき ひと こうりゅう
 産業社会学と、それぞれ学んでいる学問領域は異なります。様々な専門領域の人と交流で
 きることは、インターンシップの面白さのひとつであり、しょうらいさまざま ぶんや はたら
 けることは、インターンシップの面白さのひとつであり、将来様々な分野で働くようになる
 がくせい こんかい けいけん じんせい かつて だれ はいじょ
 学生にとって、今回のインターンシップの経験が人生の糧となること、また、誰もが排除され
 ることのない社会作りをめざす人々の大きな輪になればと願ってやみません。

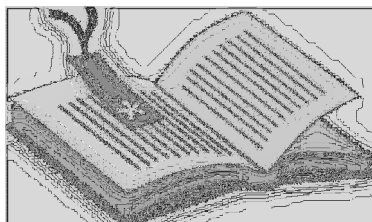
がくせい はじ おお きんちよう ひっし かつどう う い
 学生にとっても始めてのことが多く、緊張しながら必死に活動していましたが、受け入れ
 がわ ひっし とく げんば がくせい しどう たんどう しょくいん がくせい とうかい りねん かつどう
 る側も必死でした。特に、現場で学生の指導を担当した職員は、学生に当会の理念や活動に
 ついて伝えるということを通じて、自分達の仕事や活動の原点に戻ることができました。メン
 バーにとっても職員にとって若い学生との交流がとても楽しい有意義な時間となりました。
 あら であ もと とうかい かつどう しゃかい はっしん かつどう つづ おも
 新たな出会いを求め、当会の活動を社会に発信する活動を続けていきたいと思ひます。そう
 だ、春になったらまずは学生のボランティア募集に行こう！飛び出せ！わたしたち！

(カオリ・I)

こそだ にっき スタッフ子育て日記

さくねん がつ わたし ちち た かい じぶんじしん わす たいけん こ
 昨年12月に私の父が他界した。自分自身にとっても忘れえぬ体験となったが、子どもたち
 にとってもそうだったのではないだろうか。がん とうびょう もろ
 もたちが面会に行ったときには、父もそのような姿は見せなくなかったのか、頑張って意識を
 しっかり保っていた。たも よわ すがた み こ
 弱った姿は見せようとしなかったの、子どもたちには死というもの
 がなかなか実感として得られなかったのではないだろうか。

にゅういんちゅう ちち こ さまざま きも とど とく ちち よろこ じなん か じ
 入院中の父に子どもたちは様々な気持ちを届けた。特に父が喜んだのは、次男が書いた自
 作の小説だった。やますき ちち じなん やまのぼ しょうせつ か あ しゅじん
 作の小説だった。山好きだった父のために次男は山登りをテーマに小説を書き上げた。主人



こう せんぱい やまのぼ つ い はなし かんどう ちち
 公が先輩に山登りに連れて行ってもらう話だった。感動した父は
 しょうせつ かみだな たいせつ ほかん はは つた いま たいせつ
 その小説を神棚に大切に保管するように母へ伝えた。今でも大切
 ほかん ちち な ひつぎ なか しょうせつ
 に保管されている。父が亡くなったときに棺の中に小説のコピー
 い てんごく よ かえ おも
 を入れておいたので、きっと天国で読み返していると思う。

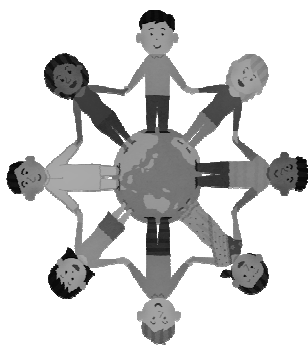
(シゲヒロ・M)

自律した市民の成熟した活動の展開に向けて

「平成」が終わりを迎えようとしている。バブルがはじけ“失われた 20 年”と言われデフレ経済に喘いだ。少子化と急速な高齢化に突入し、晩婚化・未婚率の上昇、単身世帯なかでもとりわけ高齢者の単身世帯の増加が著しい。貧困に置かれている人たちを取り巻く状況は、改善していく兆しがなかなか見えない。

一方で、この 30 年の間にさまざまな震災・災害に見舞われた。そのたびに被災地へボランティアが駆けつけた。人と人とのつながりや普段からの防災への取り組み・意識が見直されつつある。そして今年 NPO 法が施行後 20 年を迎える年に当たる。NPO にも山積する社会の課題にアプローチし、豊かな社会を実現するために参画する市民ひとり一人が主体的に活動する組織・団体であるということ認識し、自由な発想で多様な活動を生み出し育むことが求められているだろう。

「松野農園」では 2014 年 6 月から地域住民誰もが参画し、それぞれの力を発揮して社会的役割を果たすことができるような、つながりをつくっていく居場所として活動に取り組んでいる。これまでに「音楽会」や「読書会」、「フラワーアレンジメント教室」、「落語会（寄席）」、「文化交流会」などさまざまなイベント活動を通して、多くの方々に参加いただきゆるやかにネットワークをつくってきた。2017 年からは生野区内に在住する外国人留学生と一緒に、



野菜を栽培して収穫した野菜を各国の調理方法で食べながら交流する「サラダボウル・プログラム（多文化交流）」に取り組んでいる。

「居場所」のニーズがある中、さまざまな地域でその活動に取り組んでいるところがある。しかしながら、立ち上げ時の助成はあるが、その活動を持続可能なものとして継続していける枠組や仕組みについては、ほとんど自助努力に頼らざるを得ないのが現実である。空家を活用した

「居場所」づくりをすすめる会議を毎月おこなっているが、立ち上げよりもそのあと、その場をどうやって持続可能なものにしていけるのかが問われている。

なかなか出口の見えないこの社会状況を少しでも改善していくのは、公が明確なビジョンを指し示し、果たすべき役割を誠実に遂行していくことと同時に、公だけに頼らない自律した市民の成熟した活動ではないだろうか。今後とも多くの方々とつながりながら、“誰もが住みやすいまちづくり”のために、活動を展開していきたいと思う。

(トオル・Y)

2018年度総会のお知らせ

いつも当会の活動へご支援いただきありがとうございます。本当に多くの方々に支えていただき、2017年度を終えることが出来ました。

これからも、法律や制度がどうであれ、“地域で支援を必要としている人”に必要な支援ができるように、“生きにくさを抱えた人”が社会から孤立することがないように、当事者の方や地域の方と共に、日々の活動をとおして『地域』づくりの取り組みをすすめていきたいと思えます。

下記の日程で、2017年度の活動をふりかえり、新たな活動をスタートさせる総会を開催いたします。会員の皆様、是非ご参加ください。

日時： 2018年5月26日(土) 10時30分～12時30分

場所： KCC会館(大阪市生野区中川西2-6-10)

正会員、寄付者として出発のなかまの会の活動をご支援ください!

◆正会員・・・活動を支援し、総会に参加して下さる個人の方

会費3,000円+通信送料300円 計3,300円

◆寄付者・・・活動を支援して下さる個人・団体の方

寄付金 年間3,000円以上

★認定NPO法人として認定されましたので、当会へのご寄付は、税制上の優遇措置【所得税・個人住民税(大阪市内・府内にお住まいの方)】を受けられるようになりました。認定NPO法人として続けていくためには、年間3,000円以上寄付して下さる方が、100人以上必要です。ご支援、ご協力よろしく願いいたします。

◆購読者・・・出発通信を購読して下さる方

購読料500円

☆振込先：郵便振替 00910-9-306080

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

※すでに寄付金をいただいた方にも事務作業の都合で振込用紙を同封します。お許しください。

通信の郵送がご不要の方はご一報ください。

活動のあと

12/10 大阪障害者自立セミナー2017 サラダボウル・プログラム収穫祭(松野農園)	2/16 避難訓練/食と農のプロジェクトをすすめる会/どろん
12/11 ビーブルファースト大会 in 広島報告会 共生型福祉サービスについて対市協議	2/18 地域のコタツ in 松野農園(松野農園)
12/12 ゲゲゲ旅行 2017 報告会	2/19 大阪市NPO法人説明会
12/13 生野区グループホーム連絡会	2/20 インターンシップ学生ガイダンス
12/15 大阪市オールラウンド交渉② 食と農のプロジェクトをすすめる会/どろん	2/20~3/19 インターンシップ学生受入れ
12/16 あかるいみらい準備室講演(どんだん) 歌とピアノの音楽会(松野農園)	2/21 生野区学童期のこども支援連絡会
12/17 みらくるクラブ【もちつき】(松野農園)	2/22 赤倉スキー旅行報告会 フェリスモンテ共生型地域運営協議会 医療的ケア連絡協議会定例会
12/19 生野区NPO連絡会役員会/防災委員会	2/23 障大連運営委員会/地域共生ケア生野推進委員会役員会
12/20 きらら・らいすケア会議/大阪府章がい者虐待防止・権利擁護研修② 地域共生型福祉サービス運営推進協議会(フェリスモンテ)	2/24 内部研修(発達障害勉強会)
12/21 みらくる学習会/桃山学院大学講演(どんだん)	2/26 内部研修(ワンポイント講座)
12/22 障大連運営委員会 地域共生ケア生野推進委員会役員会	2/27 Eプロジェクト会議(どんだん)/作業所ミーティング みらくるちっぴ検討会議②
12/25 事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議	2/28 NPO法人ちゅうぶ・出発のなかまの会合同研修 生野区NPO連絡会役員会
12/26 内部研修(ワンポイント講座)/医療的ケア勉強会	3/1 Eプロジェクト会議(どんだん)
12/27 地域共生型福祉サービス運営推進協議会(アデランテ)	3/2 グループホームスタッフ全体会議 あてらんで地域共生型福祉サービス運営推進協議会
12/28 作業所もちつき	3/3 ILP(自立生活プログラム)講座【健康料理編③】
1/5 グループホームスタッフ全体会議	3/5 執行委員会
1/8 どんだん運動会	3/6 とんぼまるのサービスをよくする会議/消防設備点検①
1/9 とんぼまるのサービスをよくする会議 Eプロジェクト会議(どんだん)	3/7 NPO法人ちゅうぶ・出発のなかまの会合同研修 消防設備点検②/防災委員会 ひとりぐらし地震勉強会
1/10 生野区グループホーム連絡会世話人会	3/8 Eプロジェクト会議(どんだん)
1/11 執行委員会	3/8~10 契約更新手続き
1/13 ILP(自立生活プログラム)講座【健康料理編①】 みらくるちっぴ懇談会①	3/9 らいすケア会議
みらくるランチ会(松野農園)/松野農園交流会(松野農園)	3/10 みらくるランチ会【松野農園】
内部研修(発達障害勉強会)	3/14 生野区グループホーム連絡会世話人会
1/17 生野区学童期のこども支援連絡会役員会	3/16 食と農のプロジェクトをすすめる会/どろん
1/18 防災委員会/Eプロジェクト会議(どんだん)	3/18 みらくるクラブ【あそぼうパン作り】(南港中央公園)
1/19 食と農のプロジェクトをすすめる会/どろん	3/19 インターンシップ報告会
1/20 敷居の低い読書会 心の添え木【松野農園】	3/20 安全委員会
1/22 障大連・事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議	3/21 どんだんプロジェクト会議
1/23 和楽苦荘のサービスをよくする会議	3/22 フェリスモンテ共生型地域運営協議会
1/23~24 大阪府相談支援従事者現任研修	3/23 ある講演会(どんだん)/地域共生ケア生野推進委員会 子どものサポートネット事業意見交換会
1/24 あおぞら共生型地域運営協議会 あてらんで地域共生型福祉サービス運営推進協議会	3/24 内部研修(発達障害勉強会)
1/25 フェリスモンテ共生型地域運営協議会 Eプロジェクト会議(どんだん)	3/25 舍利っ寺セール outlet 入学入園おめでとう会(みらくるちっぴ) 内部研修(ワンポイント講座)
1/26 出発通信発送/障大連運営委員会/どんだん新年会 地域共生ケア生野推進委員会	3/26 生野子育て社会化研究会 和楽苦荘のサービスをよくする会議/執行委員会 作業所ミーティング
1/27 みらくるちっぴ懇談会② 松野農園ウィンターライブ(松野農園)	3/27 喀痰吸引等業務研修 あてらんで地域共生型福祉サービス運営推進協議会
1/29 生野子育て社会化研究会	3/31 松野農園寄席・nichi nichi 交流会(松野農園)
1/30 作業所ミーティング	4/4 グループホームスタッフ全体会議
1/31 生野区学童期のこども支援連絡会 生野区NPO連絡会役員会・研修会	4/6 作業所花見(京都・背割堤)
2/1 防災委員会/Eプロジェクト会議(どんだん)	4/7 内部研修(発達障害勉強会)
2/2 グループホームスタッフ全体会議	4/8 サラダボウル・プログラム花見(松野農園)
2/3 みらくるちっぴ検討会議①	4/11 NPO法人ちゅうぶ・出発のなかまの会合同研修
2/4 みらくるクラブ同窓会【冬山登山】(金剛山)	4/12 執行委員会
2/5 成年後見制度学習会	4/14 サラダボウル・プログラム/みらくるジャンプ(松野農園)
2/7 不登校・ひきこもりの支援連絡会	4/17 とんぼまるのサービスをよくする会議
2/8 執行委員会	4/18 医療的ケア連絡協議会定例会
2/7~9 赤倉スキー旅行	4/20 食と農のプロジェクトをすすめる会/どろん 生野子育て社会化研究会
2/9 防災委員会	4/23 障大連・事業所ネットワーク全体会議第1グループ会議
2/10 ILP(自立生活プログラム)講座【健康料理編②】	4/24 二者会議/かえ塾(松野農園)/作業所ミーティング
2/13 Eプロジェクト会議(どんだん)	4/25 生野区学童期のこども支援連絡会
2/14 生野区グループホーム連絡会/ホットメールなこわ	4/26 どんだん懇談会
2/15 Eプロジェクト会議(どんだん) 生野区学童期のこども支援連絡会役員会	4/28 サラダボウル・プログラム(松野農園)/障大連総会

一九八四年八月二十日 第三種郵便物認可 毎月 1・2・3・4・5・6・7・8(の日) 発行
 発行人 関西障害者定期刊行物協会 大阪市天王寺区真田山町二二 東興ビル4階 頒価百円

へんしゅうこうき
編 集 後 記

はじめて通信のレイアウトをしました。イラストを検索すると「こんなにも面白いものが！」と新たな出会いが。出発のなかまの会に就職して今年で2年目。去年は出会いに満ちた年でした。今年も素敵な出会いがたくさんありますように。

(アヤノ・F)

編集人

特定非営利活動法人 出発のなかまの会

〒544-0011
 大阪市生野区田島1-10-30たびだち共働作業所内
 TEL 06-6758-6641
 FAX 06-6758-6749

郵便振替 00910-9-306080
 (特定非営利活動法人 出発のなかまの会)
 Eメール nakamanokai-1@tabidati.jp
 ホームページ http://www.tabidati.jp/ 750部